

# 30日 土曜

## Ⅱコリント

12:11 私は愚か者になりました。あなたがたが無理に私をそうしたのです。私は当然あなたがたの推薦を受けてよかったです。たとい私は取るに足りない者であっても、私はあの大使徒たちにどのような点でも劣るところはありませんでした。

12:12 使徒としてのしるしは、忍耐を尽くしてあなたがたの間でなされた、あの奇蹟と不思議と力あるわざです。

12:13 あなたがたが他の諸教会より劣っている点は何でしょうか。それは、私のほうであなたがたには負担をかけなかつただけです。この不正については、どうか、赦してください。

12:14 今、私はあなたがたのところに行こうとして、三度目の用意ができています。しかし、あなたがたに負担はかけません。私が求めてるのは、あなたがたの持ち物ではなく、あなたがた自身だからです。子は親のためにたくわえる必要はなく、親が子のためにたくわえるべきです。

12:15 ですから、私はあなたがたのたましいのために、大いに喜んで財を費やし、また私自身をさえ使い尽くしましょう。私があなたがたを愛すれば愛するほど、私はいよいよ愛されなくなるのでしょうか。

12:16 あなたがたに重荷は負わせなかつたにしても、私は、悪賢くて、あなたがたからだまし取つたのだと言われます。

12:17 あなたがたのところに遭わした人たちのうちのだれによって、私があなたがたを欺くようなことがあつたのでしょうか。

12:18 私はテトスにそちらに行くように勧め、



Bible Reference  
聖書の記述

また、あの兄弟を同行させました。テトスはあなたがたを欺くようなことをしたでしょうか。私たちは同じ心で、同じ歩調で歩いたではありませんか。

12:19 あなたがたは、前から、私たちがあなたがたに対して自己弁護をしているのだと思つていてことでしょう。しかし、私たちは神の御前で、キリストにあって語つているのです。愛する人たち。すべては、あなたがたを築き上げるためなのです。

12:20 私の恐れていることがあります。私が行ってみると、あなたがたは私の期待しているような者でなく、私もあなたがたの期待しているような者でないことになるのではないかでしょうか。また、争い、ねたみ、憤り、党派心、そしり、陰口、高ぶり、騒動があるのではないかでしょうか。

12:21 私がもう一度行くとき、またも私の神が、あなたがたの面前で、私をはずかしめることはないでしょうか。そして私は、前から罪を犯していて、その行なつた汚れと不品行と好色を悔い改めない多くの人たちのために、嘆くようなことにはならないでしょうか。

神がいないかのような価値観の中にいるコリント教会の人々に対して、パウロが苦惱している様子がわかります。

彼らは人間的な尺度でパウロの偉大さを求めているようです。それで「あなたがたが無理に私をそうしたのです。」と言うように、パウロは自分の靈的経験を誇りでもあるかのように述べて、「愚か者」にならなければいけなかつたのです。

また彼らは、信徒に負担をかけないのが良い牧会者であると考えていました。それでパウロは「負担をかけなかつた」のです。それでも与える

ことの幸いと祝福を知っているパウロは、彼らが靈的に育っていないことを「赦してください。」と、自分の責任としているのです。

また彼らはパウロに「愛され」ることによつて、感謝して報いようとするのではなく、それを当たり前と思ってさらにパウロに求めて、不満・批判をするという状態でした。

そこでパウロは「嘆くことにはならないでしようか。」とコリント教会の人々に自省を促します。私たちも同じ点で自省が必要です。まずは、私のために命を与えて愛してくださいましたイエス様に対して、「負担をかけてほしくない」「愛されて当たり前」とは思つてはいいでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？